

議題2. 2024年度の事業取組と・実施体制検討について

コロナ感染症は2023年5月から流行を抑える重症度を示す危険度が2類からインフルエンザと同じ5類に移行し、社会の活動環境はコロナ禍以前に活動状態に戻ろうとしております。

このような状況から2024年度の事業計画は従前の計画立案と異なり、当機構が更なる発展に向けた様々な課題・取組のあり方等について以下の主な実施計画に絞って皆様の意見等を頂き立案することにしたので宜しくお願いいたします。

他の計画案件については当課題の実施計画確定後に加える計画です。

1. 主たる実施計画の検討

(1) 国連/CEFACT 及び AFACT 事業関連

① 国連/CEFACT 関連

(ア) フォーラム出席

- ・第42回フォーラム: 4月29日～5月1日 Geneveで開催予定。
- ・秋の会議は現在未定。

(イ) EPs TA (V.2) プロジェクト

EPs TA のAPI化とST評価の取り組みは、5月末までに計画を作成する。その後は国連/CEFACT での技術評価過程を経て、期間は10月末頃までの作業を実施予定。

(ウ) 旅行会社とDMC&DMO間のデータ交換プロジェクトは、JTRECとしては従来通り直接には参加をしない。JTREC 石原さんが Sub-Lead として参画しており、石原さんからの要請を受けて JTREC としては具体手的な対応を取組むこととしている。

(エ) ST「ビジネス標準」プロジェクト

既に報告したSTプロジェクトのV. 1の成果を活用して、具体的な活用に供する標準化によるビジネス標準達成度評価プロジェクトV. 2として新規に国連/CEFACT にプロジェクト提案する。これらの素案検討を JTREC として進める。これは、V. 1で作成したST基準と評価方法を活用する企業・法人・旅行者がST達成情報をオンラインで共有を可能とし SDGsによる持続的観光推進を目指し他計画である。また、事業者側・利用者側が活用する達成度情報の明示化はグローバル活用も視野に入れて検討する提案である。標準化した達成度評価は国連/CEFACTが目指す持続可能な観光実現のシンボルとして「認証マーク付与事業」も視野に検討する。

なお当プロジェクトの開発は運用が密接に伴う事案であり企業・法人・旅行者等が利用にあたって具体化の調査が事前に伴うプロジェクトでありメンバーは提供者・利用者の相互の体制で実施する必要がある。

② AFACT関連

AFACTの2024年度の間接会議及び総会の開催日程は未定である。この開催は決まった時に開催の趣旨等の諸条件を勘案して参加者を派遣することを検討する。

(2) 役員の改選期に備えて

新年度の改選に備えて、現体制の検討と運営課題および改善に向けて検討する。退任が予測される役員及び新規体制の考え方を検討する。

(3) 事業収入の確保と会員の拡充確保に向けた計画

- ① 事業収入は余力がない現状であり、収入確保の具体的な検討は不可欠である。
- ② 昨年度末に提携したCGRIとのMOUについては、CDRIの提案を検討中途と伝えられているが、JETREC側からも事業協力の提案を検討する。
- ③ 現在取り組んでいる観光情報関連の事業化検討、コンサルトなどの事業、これまで休止していた有償セミナー企画の実施の取り組みを検討する。部内にこれらの専門的な推進検討チームを構成し営業活動を含めて活動体制を構築し具体化する。特に案件の問合せなどはこれまで二次的に取り組んでいたが、相手先の要求に丁寧に応える姿勢を会員すべてができる情報環境を整える。
- ④ 会員確保についてはボランティア参加には限度がある。若者向け(学生など)への情報発信や事業連携によるマンパワー確保などの施策を検討し具体化する。
- ⑤ JETRECがこれまで蓄積してきたノウハウ、提案の事業化検討チームでレビューを行なう。

以上